

■宜野湾朝保 琉球王国末期に三司官となったが、維新政策対応で、失脚。近世琉球の歌人作品集「沖繩集」を編纂。

ぎわんちようほ

シホ^シ 朴来日・1823＝ 琉球の首里城下で、王家につながる門閥の家の向延楷宜野湾親方朝昆の子に生まれる。

シホ^シ 朴追放・1829＝ 6歳： 父が最高の政治的ポストの三司官になった年、小赤頭となって初出仕。

鼠小僧磔・・・1832＝ 9歳：

滑稽+人情本 1835＝12歳： 父が三司官のまま死去。跡を継いで宜野湾間切地頭になる。

大塩平八郎乱1837＝14歳：

天保改革始・1841＝18歳：

阿部正弘首座1845＝22歳： 順調に昇進して、

国定忠治磔・1850＝27歳：

万次郎帰国・1852＝29歳： 外務次官に相当する日帳主取に、

ペリー来航・1853＝30歳：

開国開港・・・1854＝31歳： 外務大臣に相当する御鎖の側になる。

松下村塾・・・1856＝33歳： 進貢正使に任命され、中国に渡る。

治安の悪い中、北京への朝貢をすまして、

帰国。薩摩藩へ報告に向かうが、島津斉彬が急死して大騒動、琉球にも波及して多く断罪される。

安政の大獄・1859＝36歳：

桜田門外変・1860＝37歳：

斉彬派の朝保も危険であったが、謀って逆に追及側に回り、その成果もあって、

生麦事件・・・1862＝39歳： *父と同じ三司官に就任。

親薩摩派を拷問する一方、日琉同祖論も唱えていた。

明治維新・・・1868＝45歳： 明治政府の発足とともに始まる琉球所属問題を迎え、琉球の政局は混乱をきわめるなかで、

和歌、琉歌にも造詣が深く、多くの作品を残しており、 *近世琉球の歌人の歌を集めて重要な「沖繩集」を編んでいる。

廃藩置県・・・1871＝48歳： この年、廃藩置県が断行され、

学問のすすめ1872＝49歳： 王政維新慶賀の副使として、東京に出、天皇に拝謁。

明治6年政変 1873＝50歳：

佐賀の乱・・・1874＝51歳： *正月に、「迎年言志」の勅題を受けて、盛大な歌会を催すなど、得意の絶頂となるが、

初の民間工場1875＝52歳： *政府の「琉球藩」への名称替え指示を受諾した責任を問われ失脚し、この年、尚寅が宜野湾王子を名乗ったのに遠慮し、宜野と改姓。

三つの反乱・1876＝53歳： 失意のうちに、没した。
「沖繩集二編」刊行。私家集に「松風集」がある。